

# 香東川水系河川整備基本方針

平成 13 年 5 月

香 川 県

# 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 香東川流域の現状と課題	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	6

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 香東川流域の現状と課題

香東川は、香川県高松市、香川郡および木田郡に位置し、その源を木田郡三木町の高仙山（標高 627.1m）に発し、香川郡塩江町を西流しつつ、途中、阿讃山脈の大滝山（標高 946m）に源を発する栴川、竜王山（標高 1,059.9m）に源を発する内場川を合流しながら流下し、その後、西谷川を合流して流路を北に変え高松市に入り、高松市街地西部で瀬戸内海に注ぐ幹川流路延長約 33.0km、流域面積約 113.2km<sup>2</sup>の二級河川である。

その流域は、県都高松市をはじめとする中讃地域における社会・経済・文化の基盤をなすとともに多様な自然環境を有していることから、本水系の治水・利水・環境対策についての意義は極めて大きい。

気候は、北は中国山地、南は四国山脈に挟まれた瀬戸内海性気候を示し、季節風の吹く冬期には中国山地に、また夏期には四国山脈にさえぎられて降雨量は極端に少なく、1961年～1990年の30年間の年間降雨量の平均値は約 1,150mm 程度である。梅雨期と台風期に集中的な降雨が見られる。

香東川は、岩崎橋付近を境に上流域は山地河川、下流域は扇状地河川と河川形態が大きく異なっている。

上流域は大滝大川県立自然公園に代表されるように豊かな山岳自然が残されている。植生は、大部分がツブラジイやウバメガシ等の照葉樹が展開しており、大滝山付近には県下唯一といわれるブナ林が尾根沿いに細長く分布している。哺乳類は、サル、タヌキ、アナグマなどが、魚類は、アユ、アマゴをはじめ 20 種類以上が確認されているほか、ゲンジボタルなどの昆虫類及び底生動物についても多くの種類が確認されている。また、塩江町は、温泉町として有名であり沿川には桜並木などの観光的スポットが存在しており、塩江町によるアユ、アマゴ、フナの放流など季節に応じてイベントも多数開催されている。

下流域は、川幅は広くなり広々とした穀倉地帯を流下し、高松市街地付近では広い高水敷に河川敷公園、運動広場が整備され、地域住民のスポーツの場、自然と触れ合える場として親しまれている。魚類は、フナ、オイカワをはじめ 12 種類が確認されているが、扇状地に特有の伏没区間が存在している。

本水系における治水事業は、昭和 13 年 9 月に本水系を襲った 1 市 5 村にわたる未曾有の大洪水をはじめとし、度重なる洪水被害に対する治水安全度向上策として、昭和 28 年には内場ダムが竣工し、また、昭和 44 年より河道掘削工事等が行なわれてきた。

その後、昭和54年9月の台風16号により流出・浸水家屋1,780戸、浸水農地650ha、昭和62年10月の台風19号により浸水家屋1,440戸、浸水農地551ha、等の洪水被害が発生している。さらに、沿川の高松市、香川町、香南町の市街化が著しく進んでいるため洪水被害は増大すると予想され、地元住民は抜本的な治水対策を強く望んでいる。

河川の利用については、香東川は古くから、かんがい用水、水道用水の水資源等に利用されている。特に下流域は広大な耕地（耕地面積3,500ha）を有し、香川県の穀倉地帯となっており、さらに下流部の高松市は、人口30万人を超える四国有数の都市域であるため、商業・工業・人口等の集積が著しく、土地利用の高度化が進んでおり、用水需要も増加傾向にある。

このような水需要に対して、古くはため池の築造に始まり、昭和28年には多目的ダムである内場ダムの竣工、さらには昭和49年に吉野川の早明浦ダムを主水源とし当流域にも広域導水する香川用水が通水され、農業用水、水道用水の供給の安定化が図られてきた。しかし、近年の高松市の人口の着実な増加等により、平成6年、7年、8年、10年とほぼ毎年夏期において深刻な水不足に見舞われており、特に平成6年における大渇水では、高松市の水道は7月15日から1ヶ月間1日5時間だけの給水となり、経済活動と都市住民の生活は大きな打撃を受けた。現況の水源は、香東川の表流水と地下水によっているが、取水可能量は限界に達しており、新たな水源の確保が強く望まれている。

また、下流域の伏没区間については流況の改善が求められており、上流域においても異常渇水時に川に水が流れなくなる「瀬切れ」現象の発生に代表されるような、流況の悪化に起因する水質悪化及び河川環境に与える影響等に対して、新たな対応が求められている。

近年、香東川中・下流域では、高松空港や四国横断自動車道の広域高速交通網の概成に加えて、下流域に位置する高松市を中心に都市化が進展し、治水、利水対策の重要性が高まるとともに、河川環境の整備、保全に対する要請も強くなってきている。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

洪水から流域住民の生命・財産を守る「治水」、安定した水利用ができる「利水」、動植物の多様な生息・生育環境を保全し、うるおいとやすらぎのある水辺環境をつくる「環境」のバランスのとれた河川事業を流域住民の意見を十分に踏まえた上でを行い、さらに関連地域のまちづくり構想等の諸計画との調整及び地域住民、関連市町、関連行政部局との連携を図ることにより、豊かな生活環境と美しい自然環境の調和した、安全な社会を実現することが重要である。

香東川における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、水害・渇水の発生状況、河川整備の実施状況及び河川利用の現況、並びに河川環境の保全を考慮し、また、香川県新世紀基本構想、個別環境保全計画等との調整を図り、関連地域における社会経済の発展に即応するように、水源から河口まで一貫した計画を立てるものである。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、高松市、香川町、香南町及び塩江町の沿川地域を100年に1回程度発生する降雨による洪水から防御するため、洪水調節施設及び河道の整備を行う。さらに、洪水の警戒、避難等が迅速に行えるよう、避難地等についての情報を住民に周知するなどのソフト面の対策の強化に努めるものとする。

河川水の利用に関しては、諸用水の需要の増大に対処するため、新たな水資源の開発と、合理的な利用の促進を図るとともに、異常渇水時においても瀬切れ区間を解消するなど、流水の正常な機能の維持に努める。また、下流域の伏没区間については、今後も実態の調査を継続し、流域住民や学識経験者と協力して、当該区間のあるべき姿や必要な流量等について検討していくものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、住民が親しみやすい川を実現するように努め、豊かな自然を有する上流域については、産卵や移動に必要な水量を確保することでアユなどの魚類を代表とする動植物の生息・生育環境及び水質の保全を図るとともに、ゲンジボタルなどの昆虫類等を含めた水辺の動植物の生息・生育環境及び塩江温泉街の桜並木に代表されるような美しい景観に配慮した川づくりを進める。さらに、市街地を流下する下流域では、身近なコミュニケーション活動の場、スポーツ・レクリエーションの場として高水敷を整備し、地域活動を支援する水辺づくりを推進する。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮させるよう適切に行うものとする。特に香東川周辺は

渇水頻発地域であり、その被害は生態系への影響も含めて甚大であることから、ダム等貯水施設の管理に当たって、操作の確実性を確保しつつ高度化、効率化を図る。さらに、流域住民に対し積極的に河川の情報を提供し、河川と地域の密接な関係を強化し、河川の総合的な保全と利用が図れるように努める。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、流域の人口、資産状況、氾濫面積等の河川の重要度を勘案して、100年に1回程度発生する規模の洪水とする。

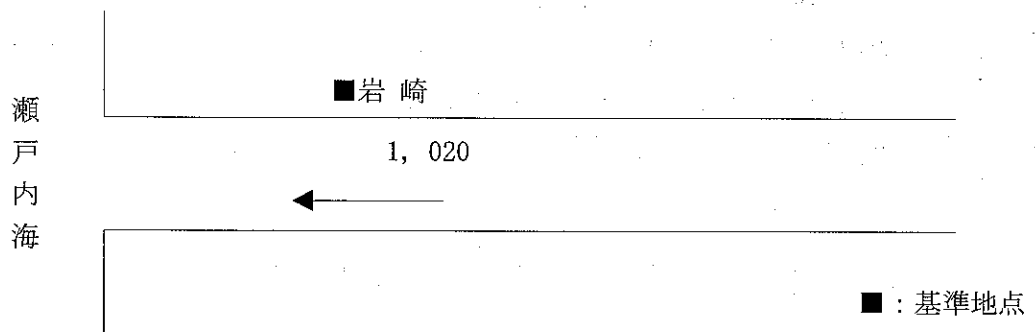
基本高水のピーク流量は、岩崎地点において $1,420\text{m}^3/\text{sec}$ とし、このうち洪水調節施設により $400\text{m}^3/\text{sec}$ を調節して河道への配分流量を $1,020\text{m}^3/\text{sec}$ とする。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位: $\text{m}^3/\text{sec}$ )

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
香東川	岩崎	1,420	400	1,020

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

香東川における計画高水流量は、岩崎地点において $1,020\text{m}^3/\text{sec}$ とする。



香東川計画高水流量配分図 (単位: $\text{m}^3/\text{s}$ )

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口または合流点からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅(m)	摘要
香東川	岩崎	河口から14.75	89.70	60	基準地点

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

香東川における既得水利としては、水道用水として約  $0.3265\text{m}^3/\text{s}$  の許可水利と、この他にかんがい面積約 3,540ha の慣行水利がある。

これに対して、岩崎地点における過去 45 年間(昭和 28 年～平成 10 年)の平均渇水流量は約  $0.019\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は約  $0.145\text{m}^3/\text{s}$  と少なく、上流域においては瀬切れが発生し、下流域においては流れが伏没している状況である。

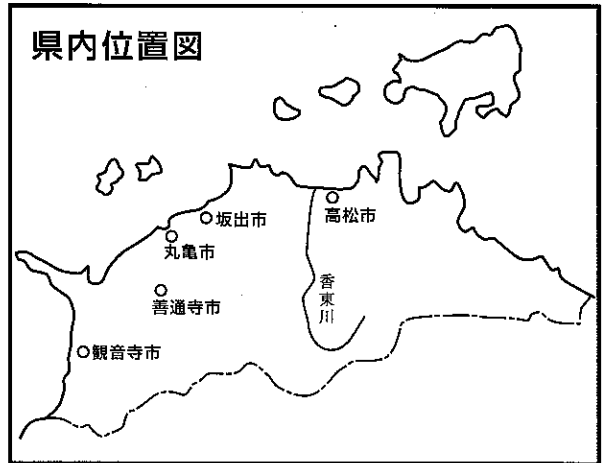
岩崎地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持などを考慮し、概ね下表に示す流量とする。また、頻発する渇水に加え、平成 6 年渇水に代表されるような異常渇水に対しても適正な水利用がなされるよう努める。

地点名	9月21日～6月10日	6月11日～9月20日
岩崎	$0.40\text{m}^3/\text{s}$	$0.39\text{m}^3/\text{s}$



瀬戸内海

# 香東川水系参考図 S=1/100,000



国分寺町

香東川

高松市

香川町

綾南町

香南町

主要な地点 (岩崎)

岡川

裏山川

綾上町

西谷川

北井谷川

三木町

△ 高仙山 (標高 627.1m)

小養川

後川

香東川

堂ヶ平川

内場ダム

桃川

貝股川

内場川

塩江町

△ 大涌山 (標高 946m)

徳島県

小出川

△ 竜王山 (標高 1,059.9m)

凡 例	
●	基準地点
—	流域界
- - -	市町界
- ( ) - ( ) -	県界
▽	既設ダム